

信楽園病院だより

118号 平成23年1月1日 発行

〒950-2087 住所 新潟市西区新通南3丁目3番11号 Tel 025-260-8200

FAX 025-260-8199

E-mail main@shinrakuen.com ホームページアドレス <http://www.shinrakuen.com>

新年雑感、はやぶさ君



院長 皆川 信



みなさん、あけましておめでとうございます。去年は26年ぶりの大雪で始まり、夏は夏で長期間猛暑が続くなど、最近では異常気象続きでびっくりさせられます。

暗い話の多い中で、去年は明るい話題として、日本人のノーベル化学賞受賞、小惑星からはやぶさの帰還などがありました。特にはやぶさの話は、日本人の心を躍らせました。

はやぶさは2003年5月、鹿児島・内之浦からM5ロケットで打ち上げられ、約20億キロ航行して05年に小惑星イトカワに到着。その後、姿勢制御装置の故障や燃料漏れが相次ぎ、エンジンが設計寿命を超えるなど、帰還は何度も絶望視されましたが、そのたびに宇宙航空研究開発機構のプロジェクトチームは解決策を見つけだし、予定から3年遅れ、往復で約60億キロの旅程を経て帰還しました。相次ぐ困難を乗り越えてきた姿に感動、共感した人は少なく、ネットなどであたたかも命ある生き物のように扱われ「はやぶさ君」として人気者になりました。はやぶさ君の最後もまた劇的でした。帰還の様子はネット中継され、夜空にきらめいたはやぶさ君の最期の輝き多くの人に見守られました。再突入の3時間前に回収カプセルを分離したはやぶさ本体はバラバラになって燃え尽き、最後は豪州に落下し役目を終えました。持ち帰られた岩石資料は太陽系の成り立ちを解き明かす可能性があるといわれています。

12月には金星探査機「あかつき」が金星に近づきましたが周回軌道に乗ることに失敗し、金星を通り過ぎてしまいました。この「あかつき」もまだ絶望視するのは早いといえます。6年後にまた金星に接近できるチャンスがあるのでこの時リベンジの逆噴射を試みるということです。いろいろ乗り越えなければならない条件は厳しいということですが「はやぶさ君」のようにまた我々にもう一度夢を見させてほしいものです。

以前、信楽園病院には天文同好会という私を含め十数名のグループがありました。自宅の庭にミニ天文台を持っておられる方（信楽園病院の患者さん）がおり、そこへお邪魔しては天体望遠鏡による星々の観察を行ったり、県立自然科学館の観察会に参加しておりました。美しい星空、輝く星たちの好きなロマンチックな人々の集まりでした。（しかしその実、飲み会の方が多いような集まりでもありました。）「はやぶさ君」、「あかつき」が、いつか、昔懐かしい天文同好会についての思い出を思い起こさせてくれました。

本年もどうぞよろしくお願いたします。



(宇宙開発機構撮影)